



川島クリニック

院長 小鍛冶 明照



新年明けましておめでとうございます。

川島クリニックは皆様にご支援いただき、10年目を迎えることができました。御支援、本当にありがとうございます。昨年を振り返りますと、相変わらずの経済の長期停滞や政治への不信、混迷が続いてきました。

石巻ロイヤル病院

院長 河村 修



新年明けましておめでとうございます。

本年は、地域の皆様共々平穏で希望に満ちた年になりますよう心から願っています。しかし、まだ震災により甚大な被害を受けた石巻では、まだ十分復旧復興が進んでいない状況ではありません。今後、関係各所で復興に向け再建が迅速に進む事を切に願っています。

一方、東京スカイツリーの誕生、ロンドンオリンピックでの日本人選手の大活躍や山中教授のノーベル医学生理学賞の受賞など明るい話題もありました。IPS細胞(人工多能性幹細胞)は、難病のメカニズムの解明、新薬の研究、再生医療への応用などにより、近い将来、多くの患者さんに大きな福音をもたらすことが期待されており。

東日本大震災後1年9ヶ月が過ぎましたが、被災地の復興はまだ満足できるものではありません。今尚、30万人超の人々が避難生活をつづけており、又、福島原子力発電所の廃炉には何十年という長い年月が必要とされ、私達は被災地の皆様の苦しみに常に思いをはせながら一時も忘れることなく応援していかなければなりません。昨年11月1日にはロイヤルシデンス川島式号館がオープンし、着実に忙しくなってきました。今年も外来診療と訪問診療で多忙な日々が続くと思いますが職員一同と頑張り参ります。皆様方の更なる御支援御指導を宜しくお願い致します。

信頼に添えられるよう丁寧に配慮した姿勢で取り組み、地域病院の一つとして微力ではありますが貢献できればと思っています。いろいろな分野における、国の方向性やその在り方に多くの意見の隔たりが、政策的に昨年12月の衆議院選挙等でも大いに議論されてきました。その中で、年々顕著になる日本全体の高齢化の中、医療福祉制度の問題点、改善点は従来に増し、ますます重要なテーマになってきています。

しかも、当地は、それに加え震災後の影響がまだ色濃く存在し、さらに政策的にも温かい対応が必要と思われる。当面、種々の困難に直面しているこの地域で、地域の皆様の安心につながる医療介護の現場の改善を促すため、医療政策的にも配慮されることを期待したいと思います。

石巻では、今年の3月で震災後2年となるにも関わらず、震災復興が進んでいるかどうか実感されない方も多く居られ、仮住宅での生活を余儀なくされている方も多く、身体的ケアのみならず心理的なケアも必要とされている方も多く居られます。高齢者を支える働き手の減少や産業の減少もあり、高齢者の医療介護をとりまく環境や状況はさらに困難を増す可能性も考えられます。

この様な医療環境下である中、できる範囲、常に患者様本位の診療という原点を見失うことなく、あるべき地域医療を今まで通り模索したいと考えています。地域においてなくてはならぬ病院として皆様に信頼していただけるよう、職員一同更に研鑽を積んでまいりますので、訪問看護ステーション心かや共々どうぞ宜しくお願いいたします。

吉祥寺南病院

院長 秋元 芳典



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。昨年はその前の年に比べ、業績が安定しました。私の努力の至らぬところと思えます。理由の一つ

に、医師の確保が大きな部分を占めていると感じております。いろいろな理由があり、医師を減らす状態になってしまいました。その後の補充がうまくいきませんでした。どの病院も同様の悩みを抱えていると思われまます。今後は医師、看護師、スタッフの確保が重要な戦略と考えられます。また、加算の基準に対してもぎりぎりのところであり余裕のある状態ではありません。また、改善の余地はあり安定的な経営にするには対策が必要と思われまます。幸い昨年より、医師の募集は動きがあり今年は何とかなるかと思われまます。基準や人員の配置等についても検討し、現在の当院にあったものを今年も作り上げようと思ひまます。

また、年末の選挙では自民党が圧勝しております。今後の動向も気になると思われまます。今後どのような戦略をもって病院を運営していくか検討していく必要があると思われまます。最近では地域の病院として多少認知されてきたかと思われまます。患者さんのことを第一に考えることを忘れないように、病院の運営形態を検討していきたいと思ひまます。まだまだ未熟ではありますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

わかばビルクリニック

院長 森島 政和



新年のご挨拶

昨年1月に東京都武蔵野市の当クリニックに赴任し、皆様のお仲間に入れました。当院の当面の目標は、地域医療の担い手としての独り立ちすることです。現在は、近隣の吉祥寺南病院さんや初めグループの皆様のご協力なしには運営できません。

の力量では限界がありました。当院がもつ医療・福祉資源を謙虚にみつめ直し、地域から必要とされているものと、そうでないものを整理し、ミスマッチを埋めていく必要があると考えています。昨年4月の名称変更を象徴的なこととして、診療科の調整、通所リハビリの定員増などを行ってまいりましたが、本年も引き続きの改善に努めてまいります。

新宿野村ビルクリニック

院長 渡辺 芳人



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。新宿野村ビルクリニックは、来る4月1日で二周年を迎えます。本年はクリニックにとって、更なる飛躍の年と考えております。新年早々に電子カルテの導入、夏にはクリニックの拡張も計画しています。当院では、健康診断・人間ドックにも力を入れ、昨年の健診受診者は三千件を数えました。いかに待ち時間を少なくして、スムーズに健診を受けられるかが今後の課題となっています。外来の患者さまの数も徐々に伸び始め、一日の平均患者数は130名に達しています。引き続き、患者さまに納得する医療を受けていただくため病状説明の時間を長く取り、日々の疑問点を解決する心がけて参ります。本年もワムタウンの職員の皆様のご多幸をお祈りし、グループ全体の向上の為に尽力致す所存でございますので、皆様方のご支援と指導の程よろしくお願ひいたします。

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年11月にやると数え7歳を迎えた老健「いとうの杜」は、福岡正

介護老人保健施設 いとうの杜

施設長 巽 紘一



年頭のご挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年11月にやると数え7歳を迎えた老健「いとうの杜」は、福岡正

裕前施設長(現 隆豊会 老健たんぼほ 施設長)の総指揮の下で構築された安定路線・レベルの上をひた走るべく円滑に運営されており、その結果、利用者様とご家族は無論のこと、地元伊東の市民からも概ね良好の評判を安定して獲得しつつあります。昨年6月より後任の施設長に着任した小職も介護看護サービスの一層の内容充実をはかるために、お陰様で日々楽しく業務に邁進できております。

当施設は去年12月初めにノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生を報告し、たいへんご心配をおかけしました。変異型が関与しているからなのかは判りませんが、今冬は何故か静岡県にノロウイルス胃腸炎が猛威を振るいました。罹患者はすべて軽症ではありますが、入所利用者様14名(すべて同一階利用者)、職員8名(6名が利用者同一階勤務)に達しました。発症者数の時系列を見ると2次感染による感染拡大を否定できませんが、初発症例の診断確定を直ちに保健所に通報するとともに、絶えず保健所の指導を仰いで、施設内感染予防対策マニュアルに則った防護と施設内消毒に努め、発症者の隔離などの対応により、いとうの杜はこの試練を乗り越えることができました。まったく感染経路が異なりますが、平成22年11月に発生したノロウイルス食中毒を克服し、今回の集団発生を経験したことはある意味で職員にとり大きな財産になるものと思っております。

さて、「花と海といで湯の町」伊東は、もう一つ「ぬくもりの花咲くお湯の町」もキャッチフレーズにしています。まだお付き合いの浅い小職が伊東から感じる「ぬくもり」は人のぬくもりです。お互いがぬくもりをもって人に接触できる豊かな人が多くいることが伊東に住み始めるの実感です。これはまさしくお互いを尊重し、人のために自分を尽くすという介護看護サービスの基本精神と共通するものであり、ここ伊東の町で「いとうの杜」が市民に愛される所以であらねばならないと考えています。

本年も、どうか皆様のご支援、ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。